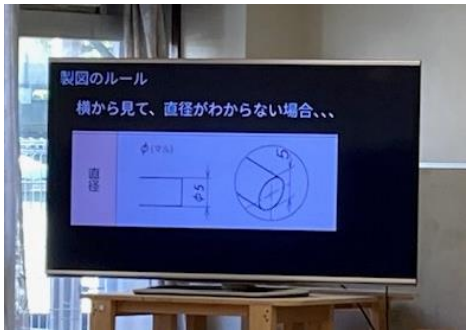
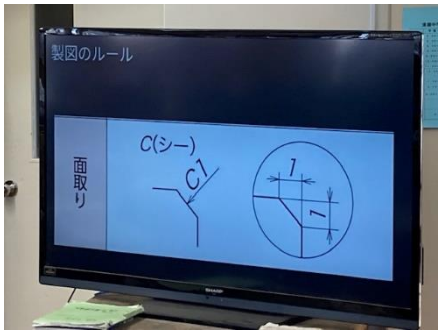
面取り

14日、2 階職員玄関前から運動会練習を眺めていると、かつての生徒が小生を訪ね階段を昇ってきました。約20年ぶりの再会です。社会人のオーラを放つその成長した姿に、教師として嬉しさが込み上げてきました。彼は「先生！変わってないですね。でも少し柔らかくなったかな。」明るい表情で校庭を駆け巡る生徒たちを見ていれば、小生の表情は緩みます。20年前の生徒にとってみると厳しく尖ったイメージばかりが記憶の中で増長しているのでしょうか。続いて「角がとれたというか、削れたというか」などと小生を評しました。そう言われると「パワーダウンした」と言われているような気がしてしまい、少しばかり背中を丸めてしまいました。

15日の2B の1校時は、社会です。この日の授業は「日本の平野・海岸・海には、どのような特色があるか」でした。急流が山肌の尖った部分を削り、その土砂を運搬する。流れが緩やかになったところに土砂を堆積させ、扇状地や三角州をつくる。今年度、新規採用となった長谷川先生の授業です。ハリのある声、明るい表情、勢いのある雰囲気、新鮮さが尖っています。パワーを感じます。

1B の技術科においても、角を削る話を聞くことができました。製図の授業です。





製図のルールを牧野先生が説明しています。話が進み「面取り（めんとり）」について言及しました。面取りとは、角を削って面を作り出す加工のこと。縦1mm、横1mmの面取りを「C1」と示すそうです（上写真）。「C1」の「1」は面の幅ではなく、削り取る1辺の長さを表しているということ。C（シー）という記号を使うことを初めて知りました。

面取り　マルトクショップ HP より

『几帳面』という言葉は皆さんに周知のところ。物事をすみずみまできちんとする様子の意です。平安時代に使われた家具『几帳』に由来する用語。「几帳面」も「面取り」のひとつなのです。几帳の柱の表面を削り、細部にわたり丁寧に細工が施されたことから、このような意味で使われるようになったようです。柱に几帳面を取ると、細かい装飾が施され絢爛となるので、格式高い建築物や寺社等に用いられることが多いそうです。

角が取れたり削れたりすることは、パワーダウンすることではなく、格式高くなっていくこと、細部にわたり丁寧になっていくことであると確信しました。熟練になるにつれ「面をとれ！」ということです。

しかし、年齢を重ねていくうえで更に必要な力は、わが身のことを何と評されても、動じない精神をもつこと。培うためにも小生には メントレ が必要のようです。